

東洋文庫所蔵・河口慧海将来 チベット語訳『八千頌般若経』

庄司 史生

1 はじめに

東洋文庫所蔵の^{チベット}西蔵蔵外文献 No.1から463までが河口慧海（1866-1945）によって将来されたもので、この中に40点の写本が含まれている⁽¹⁾。これらの写本の中には紺紙金銀泥写本『法華経』（請求記号：蔵外No.333）や、同じく紺紙金銀泥写本『金剛般若経』（同：蔵外No.311A、同Bの2本）などがある。本稿では紺紙金泥写本^{はっせんじゆはんによきょう}『八千頌般若経』（同：蔵外No.334=K本と略称）を同経典の他の版本・写本と比較対照してその特徴を紹介する。

2 『八千頌般若経』について

本書の原典となる梵語経典『八千頌般若経』は、ネパールにおいて「九法 (nava-dharma)」と称される大乘経典の一つとして数えられ⁽²⁾、梵文写本も多く現存し⁽³⁾、校訂テキストもこれまでに Mitra 本（1888）、Wogihara 本（1932-35）、Vaidya 本（1960）が出版されている⁽⁴⁾。同経典の原型となるものは紀元前100年から後100年の間に成立していたとされる⁽⁵⁾。梵本からの全訳として、エドワード・コンゼ氏による英訳（Conze 1958）、梶山・丹治両氏による和訳（梶山&丹治1974、1975）がある。本経に比定される漢訳には紀元後2世紀から10世紀にいたるまでの計七本が現存している⁽⁶⁾。『八千頌般若経』をはじめとした般若経典を概観するための解説書にコンゼ氏によるものがあり（Conze 1978）、また関連文献をまとめたものもある（Beatrix 1971、長島1992を参照）。

「八千頌」の「頌」とは、32音節を一つの単位とする śloka というサンスクリットの韻文の形式によるものであり、これは量によって般若経典を区別していることを示している⁽⁷⁾。つまり『八千頌般若経』の場合、32×8,000音節から成ることになる。般若経典の中で最大の量を誇

るものに「十万頌」(32×100,000音節)がある。最小のものに「二十五頌」(32×25音節)があり、これは『般若心経』にあたる。

3 チベット語訳『八千頌般若経』について

チベット仏教の歴史は前伝期(9世紀中頃以前)と後伝期(11世紀中頃以後)に分けられる。『八千頌般若経』のチベット語への翻訳は前伝期にすでになされている。例えば目録によると、『デンカルマ (*lHan kar ma*)』(9世紀初頭) No.5、そして『パンタンマ (*'Phang thang ma*)』(9世紀初頭) No.5にその名がある⁽⁸⁾。後伝期ではプトン・リンポチェ(1290-1364)の『仏教史 (*chos 'byung*)』(14世紀) No.109にその名を確認することができる⁽⁹⁾。

さて、チベット語訳『八千頌般若経』には大別して二種の系統が現存していることが次のように指摘されている(川合務1980a/b; 拙稿2009)。川合氏は東洋文庫所蔵・河口慧海将来の写本大蔵経(=T)所収の『八千頌般若経』を調査し、それが五大版本と呼ばれるチョーネ版(=C)、デルゲ版(=D)、ラサ版(=H)、ナルタン版(=N)、北京版(=P)よりも古形を保持したものであること(川合1980a)、さらに東京大学所蔵・多田等観将来写本と大谷大学所蔵・能海寛将来写本の2本がそれと同系統であることを指摘された(川合1980b)。先行研究の成果を踏まえ、筆者はプダク写本(Fa, Fb, Fcの3本)、ロンドン写本(=L)、そして本稿でとりあげる東洋文庫所蔵・河口慧海将来写本(=K)を調査し、結果としてFc本、L本、K本は先のT本と同系統となること、さらにチベット大蔵経論疏部(*bstan 'gyur*)所収の『世尊母随順 (*Bhagavatyaṃnāyānusāriṇī*)』(D No.3811; P No.5209)が「以前の諸本(*sngon gyi po ti rnam*)」等とよぶ『八千頌般若経』の異本がT本をはじめとした現存する古形のテキストを指示していることが明らかとなった(拙稿2009)。つまり、チベット語訳『八千頌般若経』諸本は次のように分類される。K本はより古形を示す系統Aに属する。

⎧ 系統A : Fc ; K ; L ; T
⎩ 系統B : C ; D ; Fa ; Fb ; H ; N ; S ; P ; Z

本稿は上記の分類をふまえたものであることを明記しておく。

4 東洋文庫所蔵本 (=K本) の特徴

K本は、紙を合わせて補強された紺紙に金字で書写された、いわゆる紺紙金泥写本で、装飾経の一種である⁽¹⁰⁾。以下に、書誌的事項、経題の音写表記、全章の構成、巻数の記載について記す。

4.1 書誌的事項

- ・葉数：全289葉（完本）
- ・サイズ：25.5 x 70.0cm
- ・行数：8行体
- ・書体：ウチェン
- ・冒頭に書き込み（ウメ書体）がある

「日本の求法者宝比丘（に）シガツエのデレク・ラプテンの母スナム・ペルドウンとドルジェ・ユルギエルチェンから金の『八千頌般若』とそれに附属する経木紐一組を捧げた」東洋文庫2002、19より引用。

- ・一組の装飾された経帙板と紐あり。
- ・末尾に訳者等を示すコロフォンはなく、9音節×4の偈で終わる（289a8）。

snying po'i don ston pha rol phyin pa'i gzhung//
rin chen gser las khyad 'phags bzhengs pa 'di//
mi mchog yon btsun bkra shis ldan gyis bzhengs//
dge bas 'go kun sangs rgyas thob par shog// //

「真髓の意味を説く波羅蜜多の典籍が、金の宝から特別に建立された。これは最上なるお方ユンツウンタシデンによって建立された。善に染められた仏を得んことを。」

- ・破損あり。第87、200-207、216-218、286-289葉。ただしいずれも本文に影響はない。
- ・第286葉には、はり合わせた紙がはがれて、中にウメ書体がみえる箇所がある。
- ・補修あり。第141葉は破損した紙が赤い糸で縫い合わされている。

- ・最終葉である第289葉裏には以前の書写が残る（『八千頌般若経』 32章末尾の書写）。

4.2 経題の音写表記

サンスクリット、あるいはその他インドの言語からチベット語に翻訳された仏典は、典籍の冒頭部に「インドの言葉で (rgya gar skad du)」と記してからそのタイトルをチベット文字による音写表記で示し、続けて「チベットの言葉で (bod skad du)」と記してからそのチベット語訳を示す。『八千頌般若経』の場合、サンスクリット表記は *ārya-aṣṭasahasrikā prajñāpāramitā* であり、チベット語訳では 'phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin pa brgyad stong pa となる。音写表記では諸本によってその表記法が異なるので以下にそれらを併記する。これらはすべて典籍の冒頭部から抜き出したものである (C1a1; D1a1; Fa1b1-2a2; Fb1b1-2a1; Fc2a1-2; H1b1-2; K1a1-2; L1a1-2; N1a1; P1a1; S1b1; T1a1-2; U1a1; Z1b1)。

C : ārya aṣṭa sā ha sri kā pradznyā pā ra mi tā
D : ārya aṣṭa sā ha sri kā pradznyā pā ra mi tā
Fa : ārya aṣṭa sā ha sri kā pradznyā pā ra mi tā
Fb : ārya sha ta ha sri ka pradznyā pā ra mi ta
Fc : ārya aṣṭa sa ha sri ka pradznya pa ra mi ta
H : ārya aṣṭa sā ha sri kā pradznyā pā ra mi tā
K : a rya a sta sa ha sri ka prad nya pa ra myi ta
L : ārya aṣṭa sa ha sri ka pradznyā pā ra mi tā
N : ārya aṣṭa sa ha sri kā pradznyā pā ra mi tā
P : ārya aṣṭa sā ha sri kā pra dznyā pā ra mi tā
S : ārya aṣṭa sā ha sri kā pradznyā pā ra mi tā
T : ārya aṣṭa sa ha sri ka pradznyā pā ra mi ta
U : ārya aṣṭa sā ha sri kā pradznyā pā ra mi tā
Z : ā rya aṣṭa sā ha sri kā pradznyā pā ra mi tā

これらのうち、CDFaHSUZ の計7本はサンスクリットを忠実に音写したものと見える。P本もこれとほぼ同じである。Fb本は「八千」の「千」という言葉にあたる *sā ha sri kā* とすべき箇所を *sha ta ha sri ka* と音写しているが、これは意味が通じないので誤写と考えられる。仮に *sha ta (sā) ha sri ka* (←*kā*) として *sa* (正しくは *sā*) を補い、末尾の *ka* を *kā* と訂正すれば「十万 (*śatasāhasrikā*)」となり、『十万頌般若経』という別の般若経になる。いずれにしろ、経典の本文は「八千頌」であるから誤記となる。L本は前掲の「千」にあたる *sā ha sri kā* とすべき箇所を *sa ha sri ka* と記して長音表記を省略し、サンスクリットに相応する転写を行っていない。これに近いのがT本である。N本は同じく「千」にあたる表記が若干異なる。

最後に、K本の特徴を記す。K本では他と比べてサンスクリット音写を全く用いないという点と、本来 *pā ra mi tā* とすべき箇所を *pa ra myi ta* と記して *mi* にあたる箇所に *ya* の添足字 (*ya btags*) を付した *myi* と表記する点の2点に特徴がある。後者のような *ma* 字に *ya btags* を付すのは敦煌文献等の古写本に見られる特徴である。ただし、K本でも本文中では *ma* 字に対して *ya btags* を多用するわけではなく、ただ典籍冒頭の経題音写に用例が確認されるのみである。

4.3 全章の構成

『八千頌般若経』は梵本・チベット語訳ともに全32章より構成される。ただし、チベット語訳の場合、系統AとBとの間において章題に異同が見られる。以下に、章の数「梵本章題：和訳(梶山&丹治訳による)」「漢訳(『佛母』による)」、次行にチベット語訳の章題を示す。チベット語訳に系統AとBとで訳語が異なる場合は区別して記し、訳語について *Mvy* (= *Mahāvīyutpatti* 翻訳名義大集) が規定する訳語を参照し注記する。先述したとおり、K本は系統Aに属する。

第1章 「*sarvākārajñatācaryā*：あらゆる様相に通じる仏知の追求」
「了知諸行相品」

系統A 「*spyad pa'i le'u zhes bya ba rab 'byor gyi le'u*：行の章と

いう須菩提の章」

系統B 「rnam pa thams cad mkhyen pa nyid kyi spyod pa」 = 梵本

注： T本の章題が梵本と異なることが既に指摘されている（川合1980 aを参照）。さらに Fc、K、Lの3本の章題もまたT本と同じであること、また『世尊母随順（*Bhagavatyaṃnāyānusāriṇī*）』には、上記両系統の章題を引用しつつ、系統Aの「須菩提の章（rab 'byor gyi le'u）というものは以前の諸本（sngon gyi po ti rnam）での読み」（D58a5-6; P 66a4-5）と言及されている（拙稿2009を参照）。

第2章 「śakra：シャクラ（帝釈天）」「帝釋天主品」

系統A = B 「brgya byin」 = 梵本

第3章 「aprameya-guṇa-dhāraṇa-pāramitā-stūpa-satkāra：知恵の完成とストゥーパ（塔）との尊敬に無量の功德のあること」「寶塔功德品」

系統A 「dpag tu med pa'i yon tan gzung ba dang / pha rol tu phyin pa dang mchod rten la ri mor bya ba：無量の功德の保持と、完成と塔に対する尊敬」

系統B 「pha rol tu phyin pa dang mchod rten la bkur stir byed pa gzhal du med pa'i yon tan 'dzin pa：完成と塔に対する尊敬に無量の功德があること」

注： 系統Aの ri mor bya ba は、Mvy (IF 1756; S 1753) では mānanā：尊敬。この語は系統Bの bkur stir byed pa (Mvy (IF 1765; S 1760) では satkāra：尊敬) にあたる。

第4章 「guṇa-parikīrtana：知恵の完成の特性の称揚」「稱讃功德品」

系統A = B 「yon tan yongs su brjod pa」 = 梵本

第5章 「puṇya-paryāya：福德を得る方法」「正福品」

系統A = B 「bsod nams kyi rnam grangs」 = 梵本

第6章 「anumodanā-pariṇāmanā：随喜と廻向」「随喜廻向品」

系統A = B 「rjes su yi rang ba dang yongs su bsngo ba」 = 梵本

第7章 「niraya：地獄」「地獄縁品」

系統A 「sems can dmyal ba」

系統B 「dmyal ba」

注： Mvy (IF 4750; S 4749) によると、dmyal ba は梵語 *naraka*：地獄にあたる。系統AとBとで訳語が若干異なっているが、IF 本の Mvy によると、レニングラード写本のみ *sems can dmyal ba* とする。つまりそれは系統Aの訳語と一致している。

第8章 「viśuddhi：清浄」「清浄品」

系統A = B 「rnam par dag pa」 = 梵本

第9章 「stuti：讃嘆」「歎勝品」

系統A = B 「bstod pa」 = 梵本

第10章 「dhāraṇa-guṇa-parikirtana：知恵の完成を記憶する功德の称讃」「讚持品」

系統A 「'dzin pa'i phan yon：保持することの功德」

系統B 「'dzin pa'i yon tan yongs su brjod pa」 = 梵本

注： 系統Bは梵本と一致しているといえる。一方系統Aは称讃 (*parikirtana*; *yongs su brjod pa*) にあたる語を欠く。

第11章 「māra-karma：魔の所行」「悪者障法品」

系統A = B 「bdud kyi las」 = 梵本

第12章 「loka-saṃdarśana：世界の示現」「顯示世間品」

系統A 「'jig rten bstan pa」 = 梵本

系統B 「'jig rten yang dag par ston pa」 = 梵本

注： 系統AとBともに梵本からの訳語といえる。系統Bでは梵語 *saṃdarśana* の接頭辞 *sam-* に対して *yang dag par* を付している。系統Aは単に *bstan pa* とするだけであるが、Mvy (IF 806; S 804ほか) ではこれを *saṃdarśana* にあてている。

第13章 「acintya：不可思議な仕事」「不思議品」

系統A = B 「bsam gyis mi khyab pa」 = 梵本

第14章 「aupamya：比喩」「譬喩品」

系統A = B 「dpe」 = 梵本

第15章 「deva：神々」「賢聖品」

系統A 「lha'i dbang po」

系統B 「lha」 = 梵本

注： 系統Aでは梵語 deva にあたる lha に属格助辞 + dbang po (梵語 indra) を付す。つまりこれを梵語に直すと devêndra になる。Mvy (IF 3136; S 3139) でも lha'i dbang po は梵語 devêndra : 天主となる。

第16章 「tathatā : ものの真相」 「眞如品」

系統A = B 「de bzhin nyid」 = 梵本

第17章 「avinivartaniyākāra-liṅga-nimitta : 不退転の菩薩の形状とするしと証拠」 「不退轉菩薩相品」

系統A = B 「phyir mi ldog pa'i rnam pa dang / rtags dang / mtshan ma」 = 梵本

第18章 「śūnyatā : 空性」 「空性品」

系統A = B 「stong pa nyid」 = 梵本

第19章 「gaṅgadevī-bhagini : ガンガデーヴィー天女」 「甚深義品」

系統A = B 「sring mo gang gā'i lha mo」 = 梵本

第20章 「upāyakaūśalya-mīmāṃsā : 巧みな手だての考察」 「善巧方便品」

系統A = B 「thabs mkhas pa la spyad pa」 = 梵本

第21章 「māra-karma : 魔の所行」 「辯魔相品」

系統A = B 「bdud kyi las」 = 梵本

第22章 「kalyāṇa-mitra : 善友」 「善知識品」

系統A = B 「dge ba'i bshes gnyen」 = 梵本

第23章 「śakra : シャクラ (帝釈天)」 「帝釋天主讚歎品」

系統A = B 「brgya byin」 = 梵本

第24章 「abhimāna : 慢心」 「増上慢品」

系統A = B 「mngon pa'i nga rgyal」 = 梵本

第25章 「śikṣā : 学習」 「學品」

系統A 「myur ba」

系統B 「bslab pa」 = 梵本

注： 系統Aのmyur ba はMvy (IF6821; S6853, IF6822; S6854) では、梵語 āśu, śighra : 快とある。系統Bのbslab pa は梵語 śikṣā : 学に相應している。

第26章 「māyopama : 幻のごとき心」 「幻喩品」

- 系統 A = B 「sgyu ma lta bu」 = 梵本
 第27章 「sāra：核心」「堅固義品」
 系統 A = B 「snying po」 = 梵本
 第28章 「avakīrṇa-kusuma：アヴァキールナ・クスマ如来」「散華緣品」
 系統 A = B 「me tog bkram pa」 = 梵本
 第29章 「anugama：知恵の完成への随順」「隨知品」
 系統 A = B 「rjes su rig pa」 = 梵本
 第30章 「sadāprarudita：サダープラルディタ菩薩」「常啼菩薩品」
 系統 A = B 「rtag tu ngu」 = 梵本
 第31章 「dharmodgata：ダルモードガタ菩薩」「法上菩薩品」
 系統 A = B 「chos 'phags」 = 梵本
 第32章 「parīndanā：委託」「囑累品」
 系統 A = B 「yongs su gtad pa」 = 梵本

上記のように、系統AとBとの間に異同がみられるのは1、3、7、10、12、15、25章の7つの章題である。特に第1章の章題は『世尊母随順』が二種の系統それぞれの名を挙げ区別している点で興味深い。K本はその中で「前の諸本」と呼ばれるもの=系統Aに属している。ネパール系の梵文写本はチベット語訳『八千頌般若経』の系統Bと近似していることから、それよりも古形を保持する系統Aに属するK本等はさらなる調査が必要である。なお、本稿に[表1 チベット語訳『八千頌般若経』各章所在対照表]、[表2 チベット語訳・梵本『八千頌般若経』章題対照表]を付したので参照されたい。

4.4 卷 (bam po) 数の記載

チベット語訳『八千頌般若経』は、系統AとBともにすべて24巻本である⁽¹¹⁾。ただし、次のようにK本には巻数の表記に誤記や脱落が認められる。

たとえば、bam po bzhi (巻四) と記すべき箇所に bam po gsum (巻三) と記し、続けて bam po lnga (巻五) と記すべき箇所に bam po bzhi (巻四) と記してしまっている。これは、書写者が bam po gsum

(卷三)と記すべき箇所を書きしなかったために、卷四と記すべき箇所に卷三と誤記したものと考えられる。その後、卷数表記がなされるべき箇所に「卷 (bam po)」とは記すものの、卷数自体を記さなくなってしまうのは、卷三と記すべき箇所を書きしなかったために卷数表記にずれが生じてしまったことに起因するのであろう。このように卷四と卷五を誤記し、それによって卷六から八までが「卷」とのみ記載され、卷九から十二と記載されるべき場所まで「卷」の記載が消失する。卷十三と十四は「卷」とのみ記し、卷十五と記すべき箇所は何も記載されず、卷十六とすべき箇所に卷十五と誤記している。そして卷十七から最後の卷二十四までは卷の記載がない。以上をその所在とともに表にまとめると [表3 卷 (bam po) 数の記載状況一覧表] となる。

5 おわりに

本稿では、他の版本・写本との比較を通して、東洋文庫所蔵・河口慧海将来チベット語訳『八千頌般若経』(=K本)の特徴を示した。全体として状態の良い紺紙金泥写本であること、一組の装飾された経帙板と紐を有していること(本稿4.1)は特筆すべき点である。また内容として卷数の表記に誤記が見られる(同4.4)ものの、経典の本文は古形の伝承を保持していることが認められる(同4.2、4.3)ことから、『八千頌般若経』のテキストの形成過程を考える上で重要な情報をもつ文献といえる。

6 文献と略号

6.1 使用文献

チベット語訳『八千頌般若経』(*'phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin pa brgyad stong pa*)

Cone No.1001 (=C); Derge No.12 (=D); Phug brag No.838 (=Fa); Phug brag No.839 (=Fb); Phug brag No.840 (=Fc); Lhasa No.11 (=H); 蔵外 (Toyo Bunko) No.334 (=K); London No.647 (=L); Narthang No.13 (=N); Stog Palace No.15 (=S); Peking No.734 (=P); Tokyo (Toyo Bunko) No.31 (=T); 蔵外 (Toyo Bunko) No.

309 (=Z).

『世尊母随順』 (*Bhagavatyāmnāyānusāriṇī-nāma-vyākhyā*; *bcom ldan 'das ma'i man ngag gi rjes su 'brang ba zhes bya ba'i rnam par bshad pa*)
D3811; P5209.

『翻訳名義大集』 (*Mahāvīyūpatti*) = Mvy.

施護訳『佛母出生三法藏般若波羅蜜多經』 (『大正新脩大藏經』 No.228,
vol.8) = 『佛母』

6.2 参考文献

梶山雄一&丹治昭義1974、『八千頌般若經Ⅰ：大乘仏典 第2巻』中央公論社 東京。

———1975、『八千頌般若經Ⅱ：大乘仏典 第3巻』中央公論社 東京。

川合務1980 a、「東洋文庫所蔵・写本チベット訳『八千頌般若經』について」『印度學佛教學研究』(以下、『印佛研』) 28(2), pp.150-151.

———1980 b、「写本チベット訳『八千頌般若經』の翻訳年代について」『印佛研』 29(1), pp.95-97.

河口慧海2004、「鑑定書(西蔵文般若八千偈經)」『慧海資料：河口慧海著作集 別巻第3巻』うしお書店 新潟、pp.339-342.

川越英真2005、『dKar chag 'Phang thang ma』東北インド・チベット研究会 仙台。

榊亮三郎1998、『梵蔵 漢和四訳対校 翻訳名義大集』臨川書店 京都(復刻版) = Mvy(S).

庄司史生2008、「小品系般若經内における『大般若波羅蜜多經』第四会と第五会の位置付け」『仏教文化の諸相：坂輪宣敬博士古稀記念論文集』山喜房佛書林 東京 pp.(225)-(245).

———2009、「チベット語訳『八千頌般若波羅蜜多』の系統分類とその基準」『佛教史学研究』 52(1), pp.1-22(L).

ショペン, G. [小谷信千代訳] 2000、『大乘仏教興起時代 インドの僧院生活』春秋社 東京。

田中公明&吉崎一美1998、『ネパール仏教』春秋社 東京。

東洋文庫2002、『河口請来蔵外文献解説』 (<http://61.197.194.9/Database>)

/KawaguchiTop.html).

中沢中2009、「東洋文庫のチベット仏教文献」『東洋文庫書報』40, pp.47-75(L).

長島尚道&神仁&高野正宏1992、「般若經典類研究書籍・論文目録」『般若波羅蜜多思想論集：真野龍海博士頌壽記念論文集』山喜房佛書林 東京、pp.251-306.

西岡祖秀1980、「『プトゥン仏教史』目録部索引I」『東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要』4, pp.61-92.

森岡康 [編、ケツン・サンボ述] 1970、「チベットの写経」『東洋文庫書報』1, pp.33-39.

芳村修基1974、「デンカルマ目録の研究」『インド大乘仏教思想研究』百華苑 京都、pp.99-199.

Beatrix, P. 1971, *Bibliographie de la littérature Prajñāpāramitā. PIBHEB, Série Bibliographies, No.3.* Bruxelles: Institut Belge des Hautes Etudes Bouddhiques.

Chandra, L. 1981, *Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā, A Sanskrit Manuscript from Nepal.* Śatapiṭaka Series, vol. 265, New Delhi: Sharada Rani.

Conze, E. 1958, *Astasahasrika prajnaparamita.* Bibliotheca Indica: a collection of oriental works; No. 284, issue no. 1592. Calcutta: Asiatic Society.

———1978, *Prajñāpāramitā Literature.* Bibliographia philologica Buddhica. 2nd ed. Tokyo: The Reiyukai (First published 1960).

Herrmann-Pfandt, A. 2008, *Die lhan kar ma.* (Philosophisch-Historische Klasse Denkschriften, 367. Band) Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften.

Ishihama, Y. & Fukuda Yoichi [ed.] 1989, *A New critical edition of the Mahāvīyūtpatti.* Tokyo: Toyo Bunko. = Mvy (IF).

Lalou, M. 1953, Les texts bouddhiques au temps du khri-sroG-lde-bcan. *Journal Asiatique.* Tome 241. pp.313-353.

Matsunami, S. 1965, *A Catalogue of the Sanskrit Manuscripts in the Tokyo University Library.* Tokyo: Suzuki Research Foundation.

- Mitra, R. 1882, *The Sanskrit Buddhist Literature of Nepal*. Calcutta: The Asiatic Society of Bengal Calcutta.
- 1888, *Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā, A Collection of the Discourse of the Metaphysics of the Mahāyāna School of the Buddhist*. Calucutta: Bibliotheca Indica.
- Sander, L. 2002, New fragments of an Aṣṭasāhasrikā of the Kuṣāṇa period. *Manuscripts in the Schøyen Collection III*. Oslo: Hermes Publishing, pp.37-44.
- Walsh, E. H. C. 1904, “A list of Tibetan Books brought from Lhasa by Japanese Monk, Mr. Ekai Kawa Gochi,” *Journal of the Asiatic Society of Bengal*, part I, Vol. LXXIII, No.2, pp.118-177.

注

- (1) 同一 No. の中に重複を示す A、B などの記号があるが、必ずしも同一の版ではない。河口将来文献中の写本については東洋文庫2002、3-4を参照。また東洋文庫が所蔵するチベット仏教文献については中沢2009に詳しいので参照されたい。
- (2) 田中1998、117「九法宝」の項を参照。①『方広大莊嚴經』②『月灯三昧經』③『入楞伽經』④『八千頌般若經』⑤『華嚴經』⑥『入法界品』⑦『法華經』⑧『十地經』⑨『金光明經』⑩『如來秘密經』。
- (3) 河口慧海将来の梵文写本は東京大学、東洋文庫に所蔵されている。東京大学所蔵梵文写本は河口のほかにも高楠順次郎（1866-1945）将来梵文写本より構成される。『八千頌般若經』も両者によって将来されたものが東京大学に所蔵されている（No.43からNo.52）。目録は Matsunami 1965を参照。また東京大学総合図書館所蔵南アジアサンスクリット語写本データベースにて上記写本がオンラインで閲覧可能（<http://utlsktms.ioc.u-tokyo.ac.jp/>）。ネパール系の梵文写本の影印版はロケーシュ・チャンドラによってシャタピタカ・シリーズより出版されている（Chandra 1981）。
- (4) 現在までに Mitra 1888、Wogihara 1932-35、Vaidya 1960の三種が出版されている。
- (5) Conze は般若經の發展期を四期に区分した上で『八千頌般若經』をそ

の中の第一期、つまり最古のテキストと位置付けている (Conze 1978 1-18)。しかしながら Schopen が指摘するように、碑文資料によるかぎり「八千頌」と明記される般若経は後期パーラ王朝 (後11-12世紀) にはじめてあらわれる (シヨペン [小谷訳] 2000, 1-30)。また漢文資料にて偈頌による区分が見出されるのは唐代の玄奘 (後7世紀) 以後である (拙稿2008)。さらに Sander が指摘するように、近年公にされたクシャーナ期のもとの推定されるスコイエン・コレクション所収の般若経写本 (後2-3世紀) はその内容から『八千頌般若経』に比定されるも、章題が回収される唯一の箇所によると、同写本は自身のことを『八千頌』と記していない (Sander 2002, 37)。以上のことから、『八千頌般若経』の原型が紀元前後に成立していたとしても、それが固有名詞として『八千頌般若経』と呼称されるようになるのはより後代に至ってからということになる。

- (6) (a) 後漢 支婁迦讖訳『道行般若経』十卷 (『大正新脩大藏経』No.224, vol.8)
- (b) 呉 支謙訳『大明度無極経』六卷 (同上 No.225, vol.8)
- (c) 秦 曇摩婁・竺佛念訳『摩訶般若波羅蜜鈔経』五卷 (同上 No.226, vol.8)
- (d) 後秦 鳩摩羅什訳『摩訶般若波羅蜜経』十卷 (同上 No.227, vol.8)
- (e) 唐 玄奘訳『大般若波羅蜜多経 (第四會)』十八卷 (同上 No.220 (4), vol.7)
- (f) 唐 玄奘訳『大般若波羅蜜多経 (第五會)』十卷 (同上 No.220 (5), vol.7)
- (g) 宋 施護訳『佛母出生三法藏般若波羅蜜多経』二十五卷 (同上 No.228, vol.8)
- (7) ミトラは『八千頌般若経』の正確な śloka の数を数え、8190 śloka としている (Mitra 1882, 183)。
- (8) *IDan (IHan) kar ma* No. 5: 'Phags pa brgyad stong pa / shlo ka brgyad stong / bam po nyi shu rtsa bzhi * dang / shlo ka brgya / (*GNP nyi shu rtsa bzhi; CD nyi shu rtsa drug) Lalou 1953 ; 芳村1974 ; Herrmann-Pfandt 2008を参照。'Phang thang ma No. 5: (4-3) 'Phags pa

shes rab kyi pha rol du phyin pa brgyad stong pa 24 bp. 川越2005を参照。

- (9) プトン目録 No.109: brGyad stong pa 24 bp. rNgog chen po la sogs pa'i 'gyur /西岡1980を参照。
- (10) チベットの装飾経については森岡1970参照。

河口慧海による第1回チベット旅行(1900-02)の際に入手された文献リストが、その書誌情報とともにWalshによって公表されている(Cf. 東洋文庫2002, 1)。その中のNo.64に『八千頌般若経』の名を確認することができる(Walsh 1904, 169)。現在、東洋文庫が所蔵する河口慧海将来による『八千頌般若経』には、本稿でとりあげている蔵外No. 334(略号K)と蔵外No.309(略号Z=大正大学図書館所蔵・金子良太文庫所収のものと同本)の二点がある。しかし、それらの書誌情報はWalshのリストに記載されるものとは一致しない。ところが、同リストに記載される書誌情報と一致する『八千頌般若経』が、立正大学図書館所蔵・河口慧海旧蔵文献群の中に存在することが、2010年の筆者の調査によって明らかとなった。同文献群の調査報告は今後なされる予定である。

なお、河口慧海自身による「鑑定書(西藏文般若八千偈経)」が残されているが、葉数を「三百六丁」としていることからこの鑑定書はK本(全289葉)に対するものではない(河口2004)。

- (11) 先述したようにデンカルマのD本とC本はこれを26巻としている。ただし、両版ともにカンギユル所収の『八千頌般若経』は24巻本である。

(立正大学非常勤講師)

[表 1] チベット語訳『八千頌般若経』各章所在対照表

Chap.	C	D	Fa	Fb	Fc	H	K	L	N	P	S	T	U	Z
1	1 a 4	1 a 2	3 a 2	2 b 2	3 a 2	2 a 2	2 b 2	2 a 3	2 a 1	1 a 3	2 a 1	2 a 2	1 a 2	1 a 3
2	25 a 5	19 a 1	30 a 8	25 a 4	27 b 8	32 a 2	20 b 5	24 a 7	29 a 4	19 b 6	25 b 4	23 a 5	19 a 1	19 a 3
3	37 b 7	28 a 2	45 a 1	38 a 7	39 b 3	42 a 3	29 a 6	35 a 4	43 b 3	29 b 1	38 b 2	33 b 7	28 a 2	28 a 5
4	72 a 6	53 a 5	84 a 5	72 b 7	71 b 3	93 b 6	53 b 6	67 a 3	84 a 4	56 a 6	72 a 3	62 a 7	53 a 5	53 a 8
5	77 b 7	57 a 7	90 a 3	77 b 8	76 b 6	101 a 7	57 b 6	72 a 7	90 b 2	60 b 3	77 a 5	67 a 6	57 a 7	57 b 3
6	103 a 5	76 a 1	117 b 2	100 a 5	100 a 5	135 b 7	76 a 7	96 b 1	119 b 2	81 a 3	101 a 3	89 a 5	76 a 1	76 a 6
7	130 b 8	96 a 6	142 a 2	123 a 5	126 b 2	173 b 6	96 a 3	122 b 6	151 b 1	103 a 3	130 b 5	114 a 7	96 a 6	96 b 4
8	142 a 2	104 a 4	160 a 2	135 a 5	136 b 2	189 a 4	103 b 1	132 b 4	164 a 8	111 b 5	143 a 2	123 b 5	104 a 4	105 a 2
9	152 b 6	112 a 1	171 b 8	147 a 3	146 a 3	203 b 6	111 a 1	141 b 3	177 a 5	120 a 5	154 b 6	132 a 7	112 a 1	113 a 8
10	158 a 6	116 a 2	178 a 5	153 b 3	152 a 6	211 a 5	115 a 5	146 a 8	184 a 3	124 b 7	161 a 2	137 a 5	116 a 2	117 b 6
11	174 b 2	138 a 5	196 b 2	172 b 5	168 a 5	233 a 4	127 b 3	161 a 7	204 a 3	138 a 4	179 a 8	151 b 4	128 a 5	130 b 3
12	187 a 7	138 b 6	212 b 5	187 b 8	181 b 7	252 a 4	138 a 2	174 a 6	221 b 3	149 a 4	195 a 3	165 a 8	138 b 6	141 a 6
13	207 a 4	153 b 3	235 b 2	208 b 1	201 a 5	278 b 5	153 b 1	193 b 2	245 a 3	165 b 2	216 b 2	184 b 7	153 b 3	156 a 8
14	212 b 2	157 b 5	242 a 6	214 b 2	205 b 7	286 b 1	157 a 1	198 a 2	251 b 5	170 a 5	222 b 7	189 a 8	157 b 5	160 b 3
15	217 b 7	162 a 2	249 a 3	220 b 5	211 b 8	293 b 7	162 a 1	204 a 5	258 a 6	174 b 7	229 a 1	195 a 4	162 a 1	164 b 8
16	227 b 7	169 b 7	260 a 8	232 a 5	221 b 8	308 a 2	170 a 1	213 b 8	270 b 3	182 b 8	240 a 2	204 b 8	169 b 7	173 b 3
17	239 b 2	178 b 7	274 b 2	245 b 8	232 b 3	324 b 2	178 b 1	224 b 6	285 a 6	192 a 8	253 a 4	215 b 4	178 b 7	182 a 8
18	251 b 8	188 a 1	288 a 6	261 a 4	244 a 7	340 b 2	188 a 4	236 b 2	300 b 1	202 a 4	265 b 5	227 b 2	188 a 1	192 a 3
19	259 a 7	193 b 3	297 a 1	269 a 5	251 a 1	350 b 1	194 b 4	243 a 8	310 a 3	208 b 2	274 a 3	234 a 7	193 b 3	198 b 1
20	271 a 2	202 a 5	309 b 1	282 a 7	261 b 6	366 b 2	202 a 7	254 a 7	324 b 6	217 b 1	286 b 3	245 a 1	202 a 5	207 b 8
21	282 b 4	210 b 2	322 a 4	295 b 4	272 b 2	381 b 1	210 b 8	264 b 8	338 a 6	226 b 1	298 b 7	255 a 3	210 b 2	213 a 1
22	290 a 3	216 a 6	331 a 3	305 a 5	281 a 4	392 a 2	217 a 2	272 b 2	348 a 3	232 b 7	307 a 5	262 b 2	216 a 2	223 a 7
23	299 b 2	223 a 5	342 a 2	316 a 8	289 b 1	405 a 4	224 a 4	282 a 4	359 b 6	240 b 6	317 a 6	271 b 6	223 a 5	231 a 2
24	303 b 2	226 a 5	346 b 1	321 a 6	293 a 7	410 b 6	227 a 4	286 b 2	364 b 2	244 a 1	321 b 4	275 b 2	226 a 5	233 a 5
25	308 a 7	229 b 4	351 b 3	327 a 2	298 a 6	417 b 1	230 b 4	291 a 1	370 a 6	247 b 7	326 b 5	279 b 8	229 b 4	238 a 1
26	315 a 8	234 b 7	359 a 7	335 a 5	305 b 3	427 a 6	236 a 6	298 a 8	378 b 9	253 b 4	334 a 6	289 a 1	234 b 7	243 a 8
27	322 b 4	240 a 6	368 a 8	343 a 5	313 a 4	437 b 3	242 a 5	308 a 1	387 b 6	259 b 6	342 a 6	295 b 6	240 a 6	249 a 4
28	331 a 4	246 b 7	378 a 7	352 b 8	327 a 1	450 a 3	249 a 4	313 b 4	398 b 5	287 a 8	352 a 4	304 b 6	247 a 4	255 b 7
29	346 b 1	257 b 3	394 a 4	367 b 3	337 a 1	471 b 1	260 a 6	327 b 4	416 a 4	279 b 1	368 a 5	317 b 7	259 a 8	266 b 2
30	351 a 6	261 a 3	399 b 3	372 b 1	340 b 8	476 b 6	263 a 6	332 a 3	421 b 6	283 b 3	373 a 6	321 b 5	261 b 5	269 b 7
31	372 b 5	276 b 6	423 a 1	393 b 1	361 a 1	506 a 3	280 a 7	351 a 3	447 b 2	302 a 2	395 b 4	341 a 6	278 a 6	285 b 4
32	382 b 6	284 b 3	434 a 3	404 b 5	370 a 8	519 b 6	287 b 5	361 b 5	459 b 2	310 a 8	405 b 4	351 b 7	286 b 3	292 b 8
Col.	384 b 4	286 a 1	436 a 2	407 a 4	372 a 5	522 b 1	289 a 7	363 b 4	461 b 4	311 b 8	407 b 4	353 b 7	288 a 1	294 a 8

Chap.: Chapter
Col.: Colophon

[表2 チベット語訳・梵本『八千頌般若経』章題対照表]

	系統A	系統B	梵本
	FcKLT	CDFaFbNPSUZ	MVW
1	spyad pa [‘i le’u zhes bya ba rab ‘byor gyi le’u]	rnam pa thams cad mkhyen pa nyid kyi spyod pa	sarvākārajñātācaryā
2	brgya	byin	śakra
3	dpag tu med pa’i yon tan gzung ba dang / pha rol tu phyin pa dang mchod rten la ri mor bya ba	pha rol tu phyin pa dang mchod rten la bkur stir byed pa gzhal du med pa’i yon tan ‘dzin pa	aprameya-guṇa-dhāraṇa-pāramitā-stūpa-satkāra
4	yon tan yongs su brjod pa		guṇa-parikīrtana
5	bsod nams kyi rnam grangs		puṇya-paryāya
6	rjes su yi rang ba dang yongs su bsngo ba		anumodanā-pariñāmanā
7	sems can dmyal ba	dmyal ba	niraya
8	rnam par dag pa		viśuddhi
9	bstod pa		stuti
10	‘dzin pa’i phan yon	‘dzin pa’i yon tan yongs su brjod pa	dhāraṇa-guṇa-parikīrtana
11	bdud kyi las		māra-karma
12	‘jig rten bstan pa	‘jig rten yang dag par ston pa	loka-saṃdarśana
13	bsam gyis mi khyab pa		acintya
14	dpe		aupamya
15	lha’i dbang po	lha	deva
16	de bzhin nyid		tathatā
17	phyir mi ldog pa’i rnam pa dang / rtags dang / mtshan ma		avinivartanīyākāra-liṅga-nimitta
18	stong pa nyid		śūnyatā
19	sring mo gang gā’i lha mo		gaṅgadevī-bhaginī
20	thabs mkhas pa la spyad pa		upāyakauśalya-mīmāṃsā
21	bdud kyi las		māra-karma
22	dge ba’i bshes gnyen		kalyāṇa-mitra
23	brgya byin		śakra
24	mngon pa’i nga rgyal		abhimāna
25	myur ba	bslab pa	śikṣā
26	sgyu ma lta bu		māyopama
27	snying po		sāra
28	me tog bkram pa		avakīrṇa-kusuma
29	rjes su rig pa		anugama
30	rtag tu ngu		sadāprarudita
31	chos ‘phags		dharmodgata
32	yongs su gtad pa		parindanā

M = Mitra 1888; V = Vaidya 1960; W = Wogihara 1932-35.

[表3 卷 (bam po) 数の記載状況一覧表]

bam po	有無	所在	備考
1	○	2a2	
2	○	18a1	
3	×	[29a4]	
4	□	43a3	bam po 3と誤記
5	□	55a1	bam po 4と誤記
6	△	67b6	bam po とのみ表記
7	△	78a8	bam po とのみ表記
8	△	91a7	bam po とのみ表記
9	×	[103a8]	
10	×	[115a5]	
11	×	[127b3]	
12	×	[138a2]	
13	△	149a2	bam po とのみ表記
14	△	159b4	bam po とのみ表記
15	×	[169b8]	
16	□	182a2	bam po 15と誤記
17	×	[194b4]	
18	×	[205a6]	
19	×	[217a2]	
20	×	[227a1]	
21	×	[236a8]	
22	×	[249a4]	
23	×	[263a6]	
24	×	[275b6]	

○ = 正しく巻数を記載している

△ = 「bam po (巻)」と記載されるが、巻数が記載されていない

□ = 誤って巻数を記載している

× = 巻数の記載がない

所在の項の [] は、他の諸本との比較により、本来巻数が記載されるべき場所を筆者が補って示したもの